

「福音は全ての民のためにある」

2018年11月01日

ローマの信徒への手紙 15章7節～13節 だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。わたしは言う。キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり、異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです。「そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、／あなたの名をほめ歌おう」と書いてあるとおりです。 また、／「異邦人よ、主の民と共に喜べ」と言われ、更に、／「すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ」と言われています。また、イザヤはこう言っています。「エッサイの根から芽が現れ、／異邦人を治めるために立ち上がる。異邦人は彼に望みをかける。」希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう。

パウロは、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさいと勧める。

次に、「わたしは言う」と厳しい口調で語り出している。それは、ユダヤ人と異邦人の福音との関係である。まず、ユダヤ人に関して、「キリストは神の真実を現すために、割礼ある者たちに仕える者となられたのです。それは、先祖たちに対する約束を確証されるためであり」と言う。キリストは割礼のあるユダヤ人に仕えた、それは、先祖アブラハムに約束した契約を確証するためであった。ユダヤ人は福音の恵みの中に置かれており、神の民ユダヤ人に対する神の愛は微塵も揺らぐことはないと言われている。パウロは信頼している。異邦人に関しては、「異邦人が神をその憐れみのゆえにたたえるようになるためです」と、異邦人が神の憐れみを受け、神を称えるようになったと言う。異邦人は福音を受け入れ、信じる者になった。それは、パウロにとって神の真実の現われを見る、大きな喜びであった。

そこで、異邦人が神の言葉を受け入れた旧約聖書の預言を引用する。引用した3つの旧約聖書には、「国々」「すべての国」と書かれ、「異邦人」という言葉はない。しかし、パウロは「国々」の中に異邦人が含まれると見なしたのである。「『そのため、わたしは異邦人の中であなたをたたえ、／あなたの名をほめ歌おう』と書いてあるとおりです。 また、／『異邦人よ、主の民と共に喜べ』と言われ、更に、／『すべての異邦人よ、主をたたえよ。すべての民は主を賛美せよ』とされています。」

更に、イザヤの言葉を「エッサイの根から芽が現れ、／異邦人を治めるために立ち上がる。異邦人は彼に望みをかける」と書いている。これは、イザヤ書11章10節の「その日が来れば／エッサイの根は／すべての民の旗印として立てられ／国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く」からの引用で、エッサイの根から出た者が異邦人を治め、彼に異邦人は望みを置くと解釈している。パウロはあくまでユダヤ主義者である。

キリストの福音は、約束を継承するユダヤ人はもちろん、神の憐れみを受けた異邦人にも与えられた。パウロは、全ての民が福音を信じるのが夢で、時の都ローマでユダヤ人と異邦人が共に礼拝していることは夢の実現と期待していたのではないか。

パウロは「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるよう」と、ローマ教会が喜びと平和で満たされ、聖霊による希望に溢れるようにと祈っている。